

pen

with New Attitude

3/15
2017 No.424
特別定価 **780**
yen

クリエイターが
愛する服。

春夏ファッション特大号



目利き30人が選ぶ、
春夏ベストアイテム

フラワーブーケにも通ずる、色彩のコントローラー

フランス語で「美しい場所」を意味する「ドゥボリーユウ(Debeau lieu)」は、エルメスやルイ・ヴィトン、ランバンといった名だたるブランドのショールームを彩っているフラワーショップだ。オーナーのピエール・バンシユローは、いまパリでいちばん人気があるフラワーアーティストといつていいだろう。

「自分の手からなにかを生み出したい」と思い、昔から好きだった植物に携わる仕事に。いまは花屋の仕事だけでなく、ショーやショールームのデコレーション、顧客向けのブーケづくり、個人宅のパーティーの飾り付けなど、いろいろなことを請け負っています」

大切にしているのは、ポイントとなる色づかい。

「服は基本的にベーシックでクラシックなものが好き。そこにグラフィカルな要素や色をプラスしていくのが自分のスタイルです」

よく着るブランドは、アクネストウ、ディオズや、アミアレクサンドルマテュッシ、デニムならA.P.C.。そしてバスケットシューズも大好物。

「バスケットシューズはナイキやビエールアルデイが好き。仕事でない時の靴はチャーチのモカサンが定番です。



冬に白いデニムを穿くのが好きだというピエールは、この日もアミアレクサンドルマテュッシのホワイトデニムを着用。グラフィックが気に入って購入したサカイのキルティングジャケットに、一目惚れしたエルメスのスカーフを合わせたりと、私服姿にもセンスのよさが光る。

靴下のカラーをポイント使いするのも好きです。ネイビーのセーターにブルーデニムなら、靴下は黄色やローズをチョイスしてちよつとポイントを入れる。着こなしでいちばん大切にしているのは色のポイントかもしれません。ブーケをつくる時と同じです」

花とファッション。そこには共通して、クリエイターの「感覚」というものが貫かれているようだ。

「僕が仕事をする時にイメージするのは、何気ない空の美しい色だったり、18世紀のクラシックな絵画、20年代から40年代のオブジェなど。ありとあらゆる情報がインスピレーションの源泉となるんです」

そんなピエールはお洒落にもかなり敏感で、シーズンによって好きなブランドが変わるといふ。

「今シーズンはブラダがすごく気に入ります。サンダルと靴下のコーディネートなど、すべてが好きです。靴も履いてみたいのに軽くて動きやすいから、仕事にも向いてそう。かなり気になるので、早速ブティックにチェックしに行かなくちゃ！好きなものだからけでお店に行くのが楽しみです」

都会において自然を感じさせるような、軽やかなスタイルだ。

AVENUE FROCHOT



近未来をイメージさせる、
アーバントレッキング

色とりどりの花を扱うピエールにとって、色彩豊かなスタイリングはお手の物。シルバーのコートにネオンカラーが映える。コート参考商品、ブルゾン ¥155,520、シャツ ¥73,440、パンツ ¥63,720、ソックス ¥19,440、シューズ ¥86,400(すべて予定価格) / すべてプラダ(プラダ ジャパンカスタマーリレーションズ ☎0120・559・914)